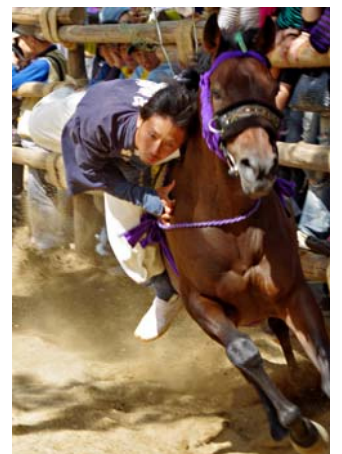




第2次 高浜市生涯学習 基本構想

—学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう—
「まなび」でつなぐ「大家族たかはま」



平成24年2月
高浜市・高浜市教育委員会

目 次

第1章 はじめに

1. 第1次生涯学習基本構想・基本計画を振り返る
 ～高浜市における生涯学習 今後の課題と方向性
 - (1) 第1次生涯学習基本構想・基本計画の成果と今後の課題 . . . 2
 - (2) 市民意識調査から見る高浜市における生涯学習の現状・課題 . . . 4
 - (3) 「こんな高浜市になったらいいな!」「こんな高浜市にしていきたい!」
 ～高浜市の未来を描く市民会議の声より . . . 7
2. 第2次生涯学習基本構想・基本計画 策定のねらい . . . 8
3. 生涯学習基本構想・基本計画の位置付け、構成と期間 . . . 10

第2章 基本構想

1. 高浜市がこれから目指していく生涯学習の方向性 . . . 14
 ～基本理念と基本目標
2. 基本目標の達成に向けての考え方
 - (1) 「まなび」の芽を発芽させよう! . . . 16
 - (2) 「まなび」の芽を育てるために、みんなで水や養分を与え合おう! 18
 - (3) 「まなび」の根っこをしっかりと大地へ下ろし、 . . . 20
 芽を大樹のように育てていこう!

第3章 基本計画

(1) 「まなび」の芽を発芽させよう!

- ① 自分磨きを続けていこう! . . . 26
- ② 未来に羽ばたく人材を育てていこう! . . . 28
- ③ セカンドライフをいきいきと過ごそう! . . . 30

(2) 「まなび」の芽を育てるために、みんなで水や養分を与え合おう!

- ① 学区を基盤とした世代間交流を活発にしよう! . . . 34
- ② 教え・教えられる仲間づくりを築いていこう! . . . 36
- ③ まなびの資源をフル活用しよう! . . . 38

(3) 「まなび」の根っこをしっかりと大地へ下ろし、芽を大樹のように育てていこう!

- ① まちへの愛着と誇りを高めていこう! . . . 42
- ② 地域の個性をまちづくりに活かしていこう! . . . 44
- ③ まなびを支える仕組み・体制づくりを整えていこう! . . . 46

生涯学習ってなんだろう？

生涯学習とは、人生を豊かにするために、
生涯にわたって継続的にまなんでいくこと。

知的好奇心を満たす、

自らの「夢」を実現するために教養を深めるという

「自分のためのまなび」もありますが

まなびを通じた仲間づくり、まなんだことを誰かに伝えたり、

住んでいる地域のために活かしていくといった

「まなびをまちづくりにつなげていく」ことによって、

高浜市が「住んでよかった」「いつまでも住み続けたい」と

思えるまちになっていくのではないのでしょうか。

生まれてから一生を終えるまで、人生の各段階において、

また、家庭・学校・団体・地域・施設・職場等々、多種多様な場面で、

タテ系とヨコ系をつむぎ合いながら、

市民一人ひとりの「まなび」がまちを織り成していく・・・。

そうした積み重ねが、人とまちの魅力を

お互いに高めあっていくことにつながっていきます。



第1章 はじめに

1

第1次生涯学習基本構想・基本計画を振り返る

～高浜市における生涯学習 今後の課題と方向性

(1) 第1次生涯学習基本構想・基本計画の成果と今後の課題

第1次高浜市生涯学習基本構想・基本計画は、平成16年度から22年度までの7か年を計画期間とし、基本理念を「自分づくりがまちづくり 自分発見！できるまち」と定め、3つの基本方針に沿って、施策を展開してきました。その主な成果と課題については、次のとおりです。

第1次高浜市生涯学習基本構想（平成16年度～22年度）

【基本理念】

自分づくりがまちづくり 自分発見！できるまち

【基本方針】

- (1) 生涯を通じてまなび、自らを磨く人づくり
- (2) まなびを活かし、地域社会を高める仕組みづくり
- (3) まなびをつなげ、創造を育むネットワークづくり

【成果】

(1)生涯を通じてまなび、自らを磨く人づくり

- ・地域における子育て支援や、青少年の体験活動を推進した。
- ・学習の場を広げるための学校と地域社会・生涯学習関連機関との連携を図った。

(2)まなびを活かし、地域社会を高める仕組みづくり

- ・学習成果の発表機会や、実践活動の場を拡充した。
- ・地域課題への自主的な取り組みやボランティア活動を支援した。
- ・市民参加の促進や協働事業の実施など、市民と行政との協働体制の構築を進めた。

(3)まなびをつなげ、創造を育むネットワークづくり

- ・異世代交流事業や開かれた学校づくりなどを通して、地域で子どもを育てる環境づくりを進めた。

【課題】

(1)生涯を通じてまなび、自らを磨く人づくり

- ・無関心層の掘り起こしなど、学ぶ意欲を掻き立てるプログラムの工夫が必要である。
- ・青少年の体験活動等を拡充していく必要がある。
- ・文化・伝統の伝承、後継者育成が急務である。
- ・生涯学習相談体制の整備が十分とはいえない。

(2)まなびを活かし、地域社会を高める仕組みづくり

- ・指導者の育成と活躍の場の拡充が必要である。
- ・市民と行政との協働を拡充していく必要がある。

(3)まなびをつなげ、創造を育むネットワークづくり

- ・学習者・指導者同士の情報交換など、ネットワーク化を促進していく必要がある。
- ・地域で子どもを育てる環境づくりを拡充していく必要がある

これらをもととして、高浜市の未来を担う人づくりをさらに進めていくために・・・

第2次高浜市生涯学習基本構想・基本計画を策定

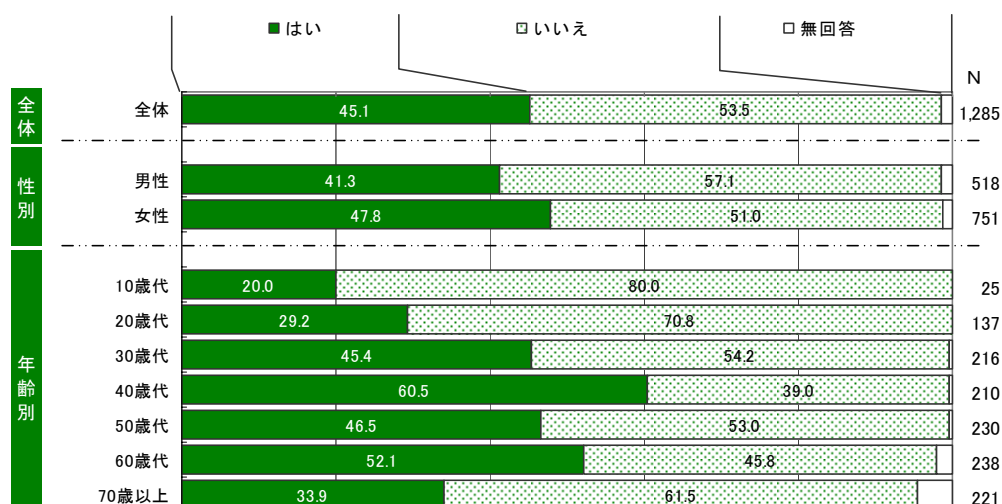
(2) 市民意識調査から見る高浜市における生涯学習の現状・課題

第6次高浜市総合計画の策定に合わせて、「市民意識調査」（満18歳以上の市民2,500人を無作為抽出）と「小・中学生アンケート」（小学3年生～中学3年生を対象）を実施しました（※いずれも平成22年10月実施）。その主な結果については、以下のとおりです。

①市民意識調査

Q. 子どもとふれあう行事に参加したことがありますか？

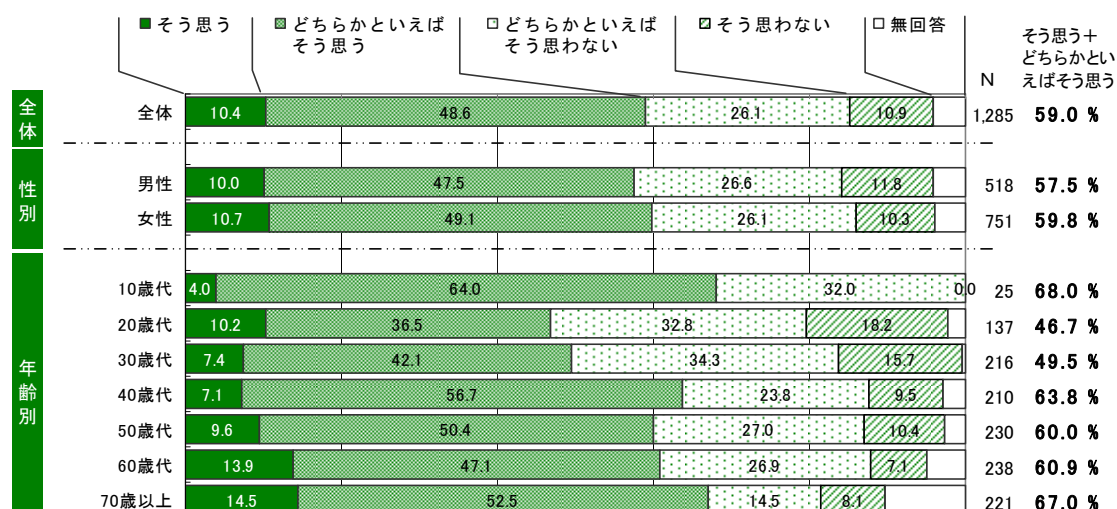
「子どもとふれあう行事に参加したことがある」市民の割合は、45.1%となっています。年齢別では、40歳代で60.5%と特に高くなっています。



Q. 高浜市は子どもを産み、育てやすいまちだと思いますか？

「高浜市は、子どもを産み、育てやすいまちだと思う」市民の割合は、「そう思う」が10.4%、「どちらかといえばそう思う」が48.6%であり、あわせて59.0%となっています。

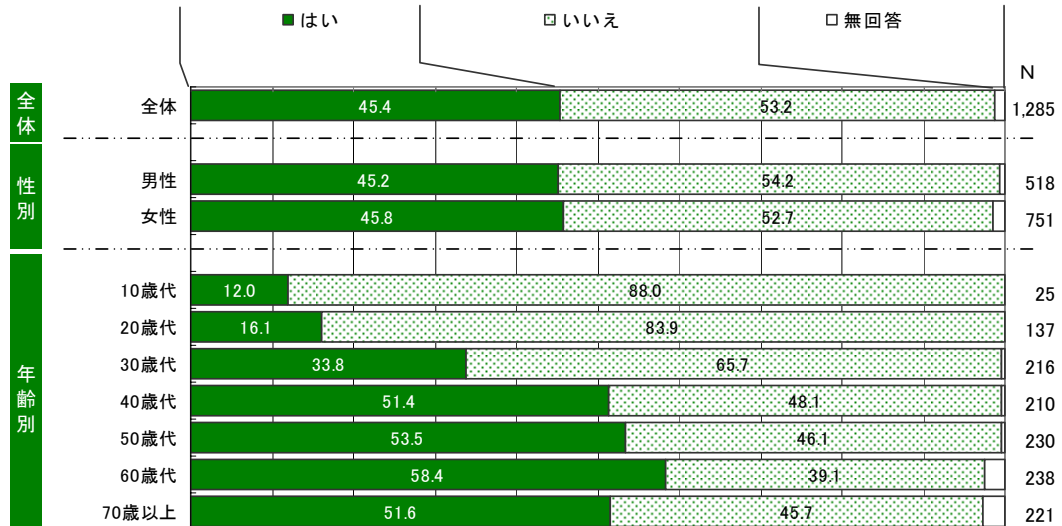
年齢別では、20歳代、30歳代で50%を下回り、40歳代以上では60%程度となっています。



Q. 町内会やまちづくり協議会など、地域活動に参加したことがありますか？

「町内会やまちづくり協議会など地域活動に参加したことがある」市民の割合は、45.4%となっています。

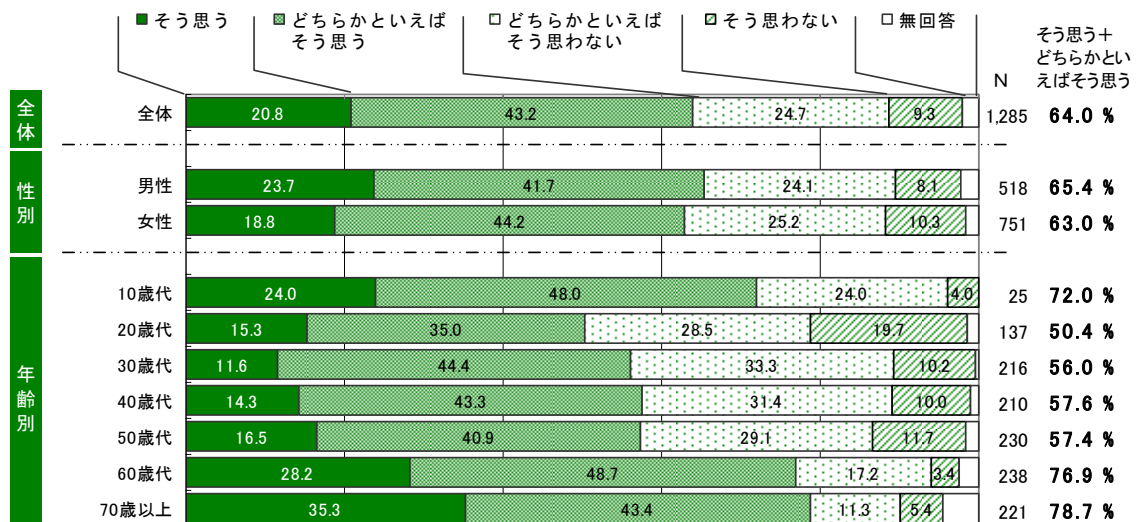
年齢別では、年代が高くなるほど「町内会やまちづくり協議会など地域活動に参加したことがある」市民の割合が高く、40歳代以上では半数を超えています。



Q. 高浜市に愛着や誇りを感じますか？

「高浜市に愛着や誇りを感じる」市民の割合は、「そう思う」が20.8%、「どちらかといえばそう思う」が43.2%であり、あわせて64.0%となっています。

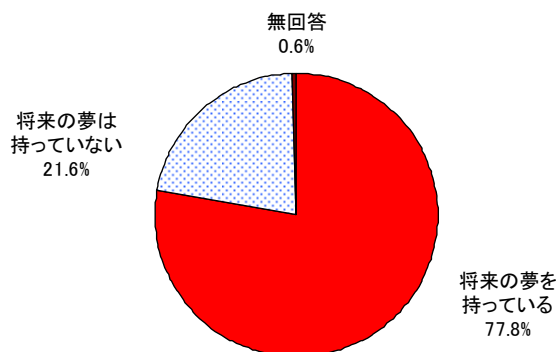
年齢別では、10歳代、60歳代、70歳以上で「高浜市に愛着や誇りを感じる」市民の割合が高くなっています。



②小・中学生アンケート

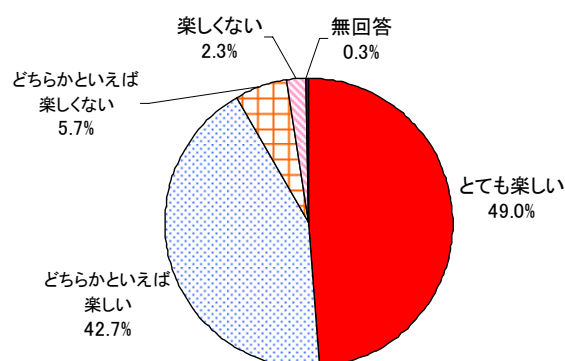
Q. 将来の夢を持っていますか。

「将来の夢を持っている」児童・生徒の割合は、77.8%となっています。



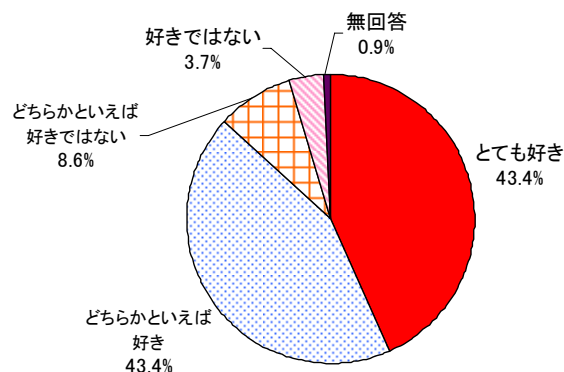
Q. 毎日が楽しいと感じていますか？

「毎日が楽しいと感じている」児童・生徒の割合は、「とても楽しい」が49.0%、「どちらかといえば楽しい」が42.7%であり、あわせて91.7%となっています。



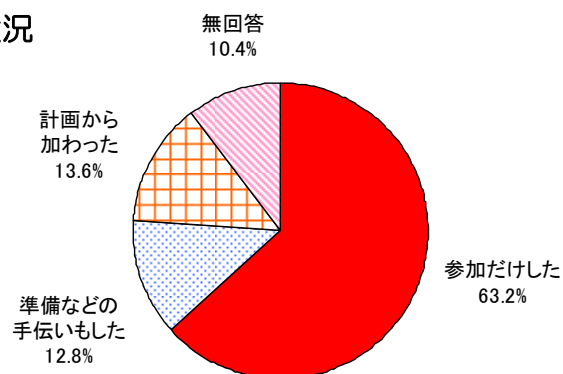
Q. 高浜市というまちが好きですか？

「高浜市というまちが好き」と答えた児童・生徒の割合は、「とても好き」が43.4%、「どちらかといえば好き」が43.4%であり、あわせて86.8%となっています。



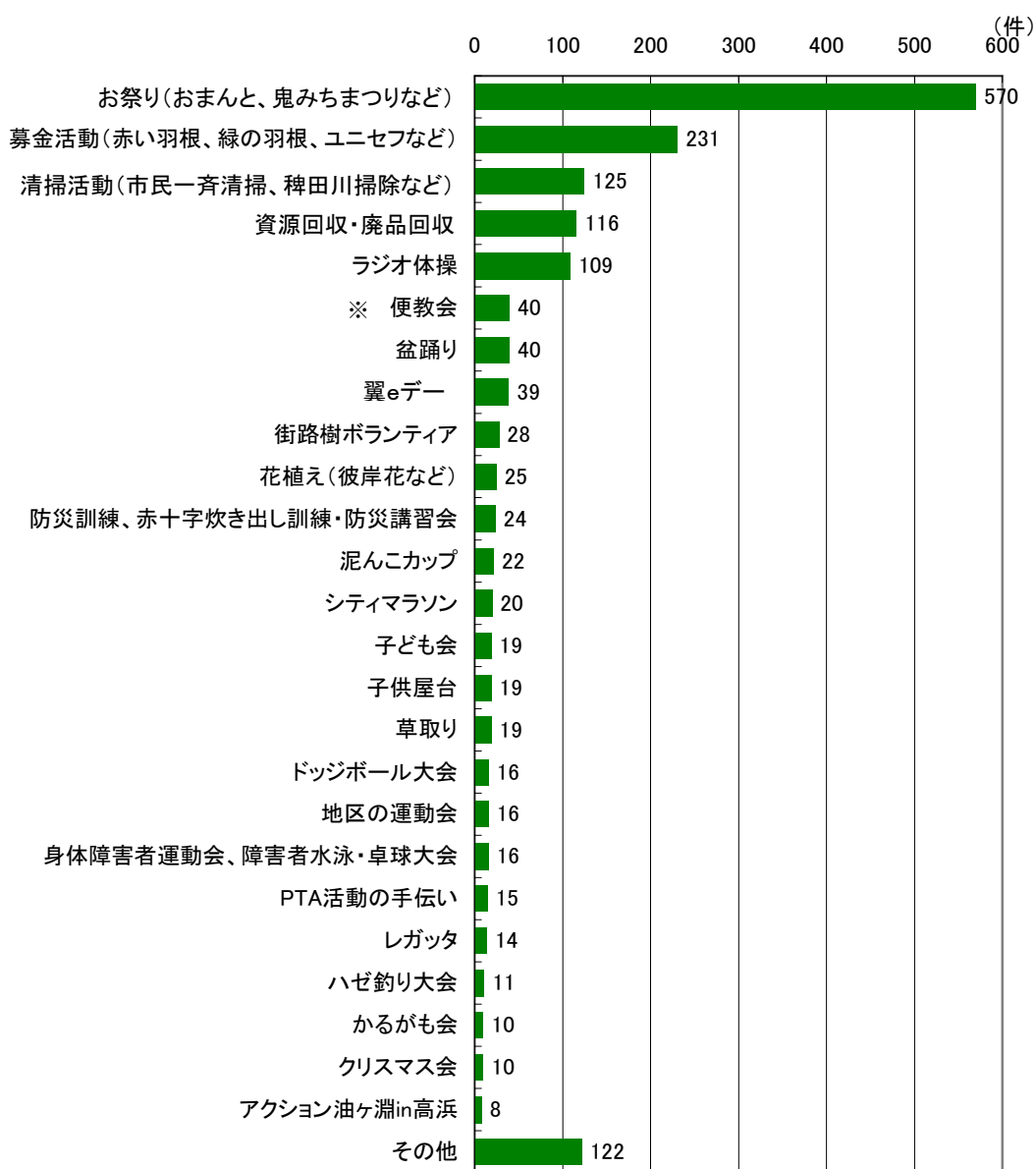
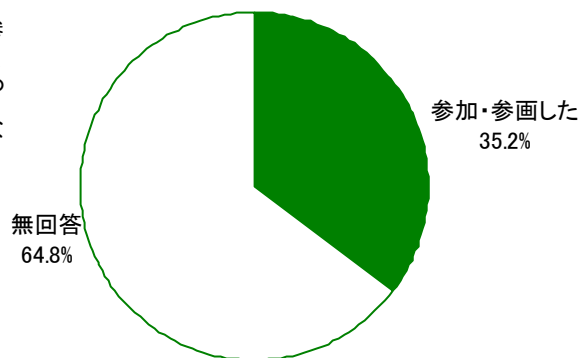
Q. 地域行事、ボランティア活動の参加・参画状況

地域行事、ボランティア活動の参加・参画状況は、「参加だけした」63.2%、「準備などの手伝いもした」12.8%、「計画から加わった」13.6%となっています。



Q. 過去1年間に「参加・参画」した地域行事、ボランティア活動【複数回答】

「過去1年間に地域行事、ボランティア活動に参加もしくは参画した」児童・生徒の割合は35.2%で、「お祭り」や「募金活動」、「清掃活動」などが多くなっています。



※便教会＝トイレ清掃（普段の清掃では手をつけないところまで徹底的に行う）を通して、“自分磨き”

③「こんな高浜市になったらいいな!」「こんな高浜市にしていきたい!」 ～「高浜市の未来を描く市民会議」の声より

第2次生涯学習基本構想の素案検討は、第6次高浜市総合計画の策定における、市民と行政との協働によるワーキンググループ「高浜市の未来を描く市民会議」の生涯学習分科会が中心となって行われました。その中から、主な意見・提案を紹介します。

子どもを社会全体で育てよう!

- ・シニアの力を借りて、子どもたちに生活常識など様々な知恵を伝授していきたいね。
- ・小さい頃から活動していても小学6年生までで途切れてしまうことが多い。その後も続けていくことができるような仕掛けや場があるといいね。
- ・大人目線で事業を考えるだけでなく、子どもの意見も取り入れながら進めていくといいよね。
- ・子どもたちと夢やあこがれ、目標や楽しいことを一緒に探してみたいし、提供していきたいな。
- ・今の「学びたい」という気持ちや取り組んでいることなどは、子どもの頃に何らかのきっかけがあったからだと思う。子どもの頃に何かに興味を持った時の出逢いを思い出し、今の子どもたちに学ぶ喜びを形にして提供していきたいな。
- ・自分が子どもの時に、どんなふうに大人に接してもらい、役立ったかが重要。小さい時の体験が今の自分をつくっている。いかに体験するかが「根っこ」になる。
- ・大人が子どもに体験させることで、大人も学び、お互いに共鳴しあうことが生涯学習につながっていくんじゃないかな。
- ・中・高校生が何をやりたいかに焦点を当て、それにミッションを与えてプロデュースしていくことが必要んじゃないかな。
- ・人と人が緩やかにつながり合うために、生涯学習が接着剤の役割を果たすんじゃないかな。



人や「まなび」との出逢いは楽しい! 何歳になっても好奇心を 持ち続けようよ!

- ・活動することで人との出逢いが楽しくなった。何か打ち込めるものがあると、参加することが楽しくなる。
- ・五感を刺激するような「まなび」との出逢いが大切。きっかけがあれば、何歳からでも挑戦できる。
- ・一緒に活動する仲間がいると、続けていきやすいね。
- ・「まなび」にしろまちづくりにしろ、いかに続けていくかが大切。1人のカリスマより10人のプレイヤーが必要だと思う。
- ・仕事仲間の縁が切れたら孤独になる。PTAや厄年など、若い頃から地域活動に参加していくことは大切だね。

「たかはま大好き」人間を 増やしていこうよ!

- ・手間ひま、面倒くささ、世話のかかるものを高浜市内にたくさんつくって、老若男女問わず携わっていくと、高浜っ子や誇りといったものが育まれていくのだと思うよ。
- ・地域の誇り探しや達人探しをしていったらどうかな?
- ・高浜市というまちのことを学び、その魅力を発信していく「高浜学」を立ち上げたらどうかな。

2

第2次生涯学習基本構想・基本計画 策定のねらい

私たちの愛するまち高浜市を未来へつなげていくために・・・

平成23年4月、まちづくりの設計図である「第6次高浜市総合計画」と、高浜市の自治の仕組みを定めた「高浜市自治基本条例」がスタートしました。

総合計画が掲げる高浜市が今後目指すべき姿のキャッチフレーズ（将来都市像）は、「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」。高浜市は、行政だけでなく、住んでいる市民、高浜市をよりよいまちにしていこうと活動している団体、事業所やそこで働いている人、学校等で学んでいる人など、様々な人たちの営みによって成り立っており、それら全てを1つの家族、すなわち「大家族」と見立て、みんなで力を合わせて高浜市を創り上げていこうという意思・決意を示しています。

「まなび」の成果を、地域を創る力へ変えていく

「まなび」の第一歩は、一人ひとりが自らの興味・関心から端を発し、趣味・教養といった楽しみや、人生を生き抜いていく力を磨いていくなど、それぞれが持っている能力の多様性の花を開かせていくための取り組みから始まります。

しかし、個人の自己完結的な「まなび」で終わらせてしまうのではなく、そうして培った力を蓄え、人と人、人とまなびを結び合いながら、「まなび」の成果を次世代を担う子どもたちの育成や地域のまちづくりに活かしていく力につなげ、高浜市をみんなで力を合わせて創り上げていくことが、非常に大切となってきます。

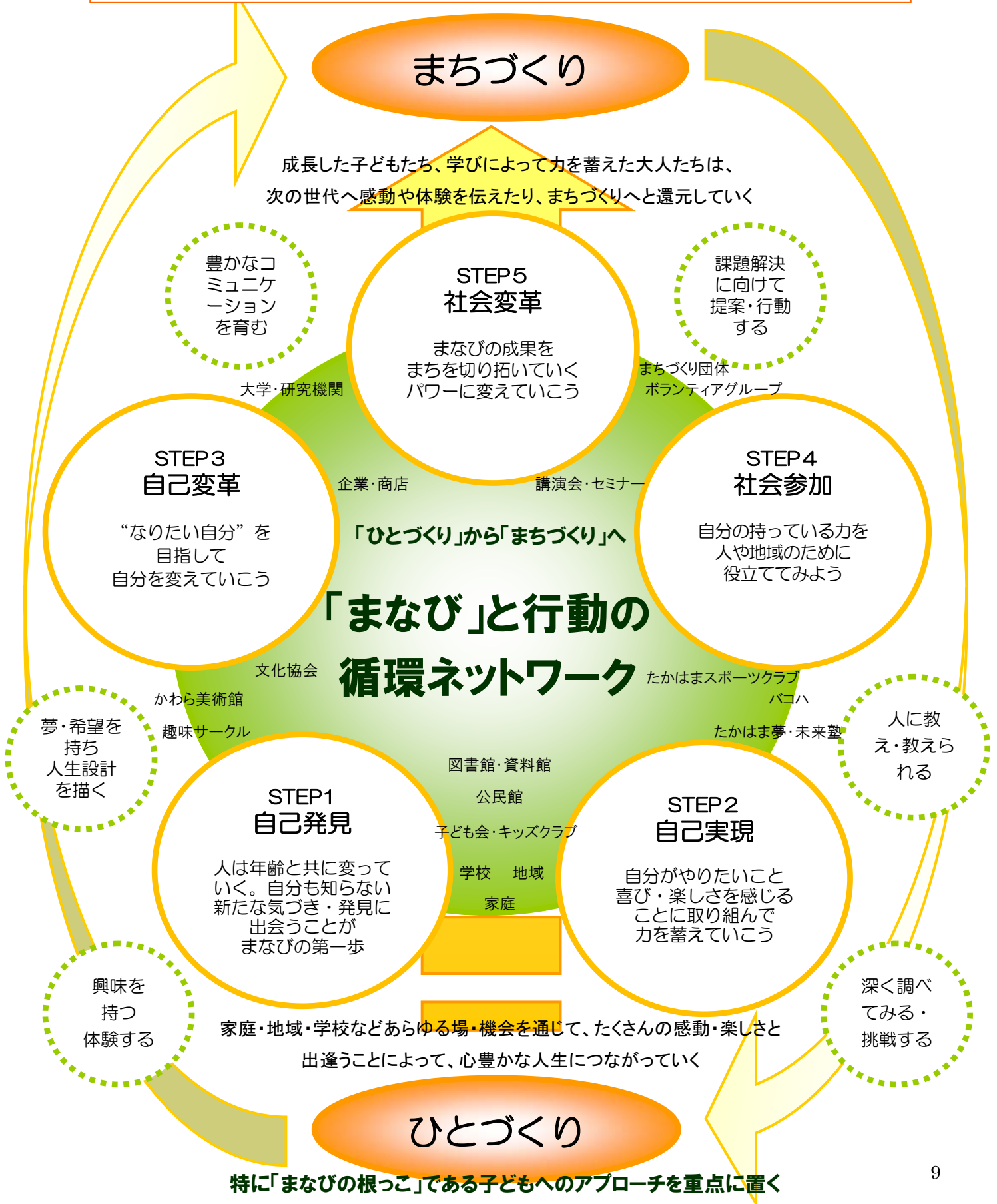
自己発見や自己実現といった個人的な学習から始まり、やがては、「まなび」の成果を、ひとづくりや地域を創る力へと高めていく『「まなび」と行動が循環しあう生涯学習』を進めていくことが、「大家族たかはま」の実現につながっていきます。

子どもたちを「根っこ」と捉え、ひとづくりとまちづくりが還流しあう生涯学習を目指す

特に、子どもたちは、次の時代のまちづくりを担う大切な“人財”です。まずは、子どもたちの「まなび」の好奇心が湧き上がってくるように、様々な体験機会を設けるといったアプローチを行うとともに、大人が子どもに夢や希望を語りかけ、子どもと大人がともに学びあい、高めあう世代間の連帯を育むような取り組みを進めていくことも大変重要です。

そうした環境の中で育った子どもが大人へと成長した時、自身の体験を思い起こし、自分の子どもたちの世代に対してアプローチをする、その関わりを通して、さらに自身を高めていくことにつながる、また、まちへの愛着や誇りを深めていく。そんな「ひとづくり」と「まちづくり」が循環しあう生涯学習を展開していくことが大切です。

— これからの高浜市が目指す生涯学習の姿 —
子どもを「まなびの根っこ」に据え、「ひとづくり」が「まちづくり」へとつながる
「まなび」と行動が循環しあう生涯学習



3

生涯学習基本構想・基本計画の位置付け、構成と期間

第2次高浜市生涯学習基本構想は、「第6次高浜市総合計画」の個別計画として位置づけ、高浜市がこれから目指していく生涯学習の方向性・基本方針である「基本構想」と、それを実現していくための具体的な取り組みである「基本計画」によって構成します。

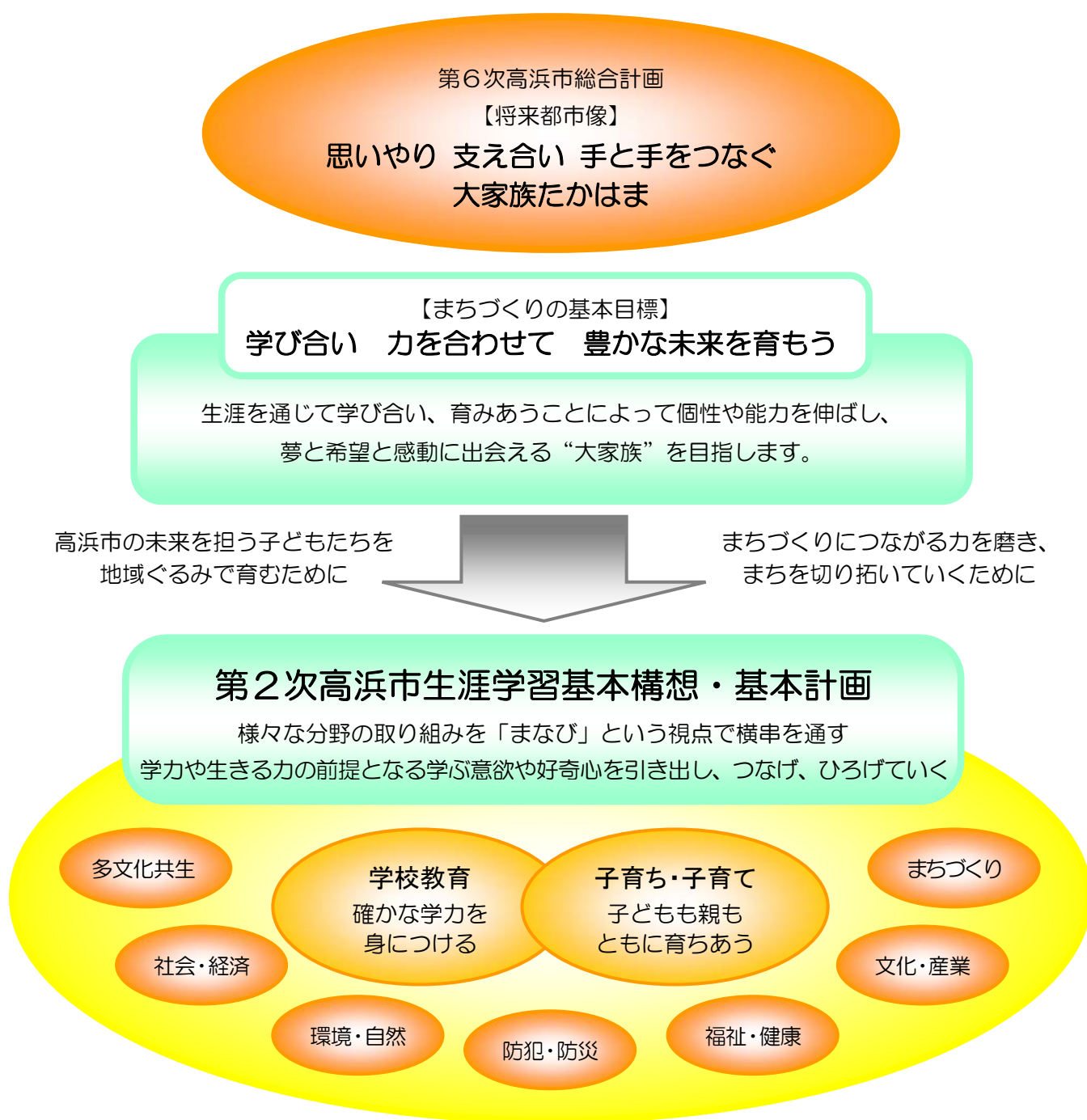
「基本構想」の計画期間は、平成24年度から33年度までの10年間とします。

また、「基本計画」については、策定後の諸情勢の変化や取組の進捗状況を踏まえて見直しができるよう、総合計画の基本計画の計画期間に合わせ、前期（2年）・中期（4年）・後期（4年）とします。



第2次生涯学習基本構想・基本計画の推進にあたっては、「高浜市教育基本構想」や「高浜市子育て・子育て応援計画」（高浜市次世代育成支援対策地域行動計画）をはじめとする他の計画とも連携・整合を図りながら、取り組んでいきます。

また、生涯学習は行政だけが担うものではなく、市民・市民団体、教育機関、企業、地域など、多様な主体と連携・協力しながら推進していくことが不可欠です。



就職と定年で3つに区切られた人生の3つの要素、
つまり学ぶこと、仕事をする事、人生を楽しむことを
年齢によって分割するのではなく、
1日24時間の中に分割する生き方なら未来がある。
1日数分であっても毎日何かを続ければ、
必ず人間は進歩する。
学ぶことに年齢は関係ない。
80歳を超えて毎日新しい発見があり、
毎年友人が増えていく人生は、本当に楽しいものである。

(糸川英夫「人類生存の大法則」より)



第2章

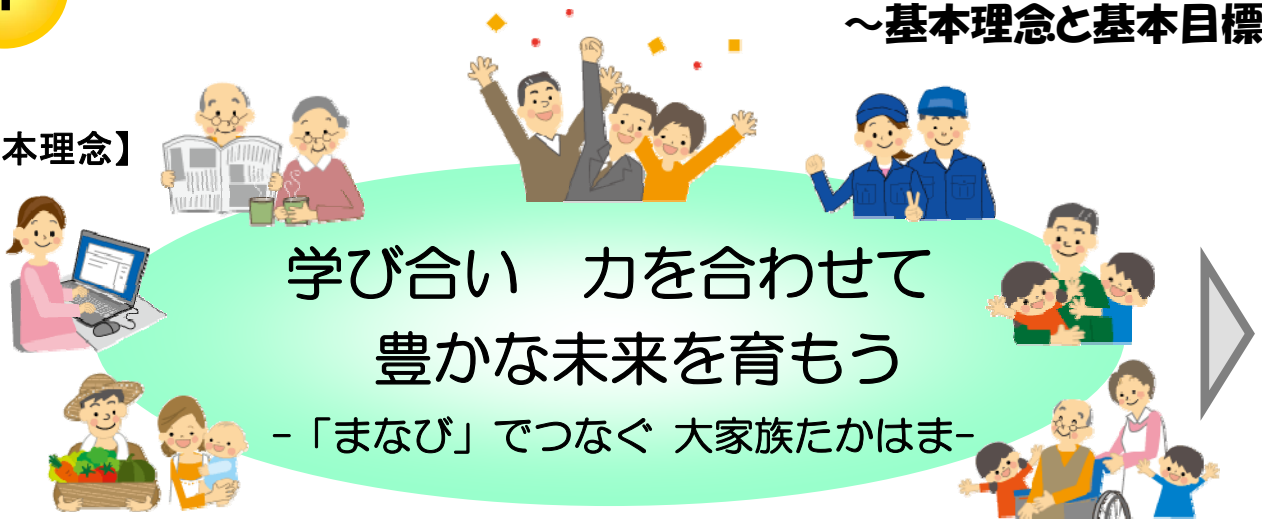
基本構想

1

高浜市がこれから目指していく生涯学習の方向性

～基本理念と基本目標

【基本理念】



生涯を通じて学び合い、育みあうことによって個性や能力を伸ばし、
夢と希望と感動に出会える「大家族」を目指します。

「まなび」は好奇心から始まる

今や、人生90年、100年時代とも言われる「長寿社会」。人生が長くなったということは、自分で人生を設計していく時代であると言えます。

人生は多毛作 一いきいきとした人生を送ることを考えた時、生まれてから一生を終えるまでの各段階において、また、家庭・学校・団体・地域・施設・職場など多種多様な場面において、「知りたい」「やってみたい」といった知的好奇心を満たす、あるいは、教養を豊かにし、自己実現につなげていくといった「まなび」を積み重ねていくことが大切となります。

一人ひとりが積み重ねた「まなび」をつなげ、行動する力に変えていく

そうした「まなび」は有形・無形の財産です。個人の中にとどめておくのではなく、学び合ったことを様々な形で社会の中に還元していくことは、社会の発展に貢献するだけでなく、自分を表現する喜びや新しい自分の発見にもつながります。また、そのプロセスを通して、仲間づくりや絆づくりにもつながっていきます。

一人ひとりが自分を磨き、その成果を結び合い、行動する力に変えていくことが、人とまちの魅力を高めることとなり、「大家族たかはま」*の実現につながっていきます。

*「大家族たかはま」とは

第6次高浜市総合計画（計画期間：平成23年度～平成33年度）では、「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を、高浜市の将来都市像（目指すまちの姿）として掲げています。

高浜市というまちは、行政だけでなく、住んでいる市民、高浜市をよりよいまちにしていこうと活動している団体、事業所やそこで働いている人、学校等で学んでいる人など、様々な人たちの営みによって成り立っています。

そこで、それら全てを1つの家族、すなわち「大家族」と見立て、「個々の力でできることは個々で行う」「地域のみんなで力を合わせればできることは、その中で行う」「地域のみんなで力を合わせてもできないことは、高浜市全体で行う」という考え方のもと、みんなで高浜市のことを考え、行動に移していくという「市民自治都市・高浜市」をみんなで創りあげていこう！という想いが込められています。

【基本目標】

(1) 「まなび」の芽を発芽させよう！

(2) 「まなび」の芽を育てるために、みんなで水や養分を与え合おう！

(3) 「まなび」の根っこをしっかりと大地へ下ろし、
芽を大樹のように育てていこう！



「まなび」の根っこは「子どもたち」

また、高浜市というまち全体をひとつの大地として見立てた場合、「まなび」の根っこは、「子どもたち」です。「まなび」はその人の生き方に大きな影響を与えます。子どもの頃に体験したことや記憶は、ずっと生き続けます。未来へ向かって子どもたちが羽ばたくためには、「まなび」の意欲につながる感動や体験にたくさん出逢うことが大切。子どもたちが夢と希望を持って青少年から社会人へと成長していく中で、大人も高浜市自体も大樹のように広がりを持って一緒に成長していくことが、「私たちの愛するまち・高浜市」を次の時代へつなげていくこととなります。

こうした、子どもたちを社会の担い手として成長させていく地域の力を「地育力」（地域教育力）と捉え、「地育力」を大きく育み、生態系のような循環型で持続可能な生涯学習を目指していきます。

高浜市を知り、愛着・誇りを高めていく

さらに、高浜市には、瓦産業や鬼瓦製作技術、吉浜細工人形、菊人形をはじめ、先人たちが長い年月を重ねて培い、伝承してきた、国内外に誇る個性豊かな地域資源がたくさんあります。これらは高浜市民の共有財産であり、次の世代へ継承していくことは、今を生きる私たちの使命です。

そのためには、まずは、高浜市というまちを知ることから始まります。歴史・伝統・文化・産業・自然などの魅力を掘り起こし、発信・活用していくなど、高浜市で学び、高浜市で活動していくことによって、高浜市に対する愛着や誇りを高めていきます。

2 基本目標の達成に向けての考え方

(1)「まなび」の芽を発芽させよう！



好奇心に灯をともしよう

「まなび」は、「知りたい」「やってみたい」といった好奇心から始まります。また、お腹の中にいる時から一生を終えるまで、生涯にわたって続くものでもあります。

だれでも・いつまでも、「もっと知りたい」「あれもやってみたい」と思えるような、「まなび」の好奇心や意欲を引き出す場や機会を、地域や学校、関係機関等と連携して創っていきます。

子どもはもともと、自ら伸びようとする芽を持っています。大人は子どもに対して、芽を伸ばそうとする光を与え、しっかりとした根に育てる責任があることから、大人が行動を起こし、変わっていくことが大切です。

- ★ 人生をいきいきと豊かにする趣味・教養といった「自己実現型のまなび」にとどまらず、自分の人生を設計する力やコミュニケーション能力などが身につくように、さらに、地域の課題発見・解決につながるような「まなび」に出会える場・機会を創っていくことが大切です。

環境、防犯、防災、福祉、消費生活、情報、社会経済、スポーツ、健康づくり、食育、産業、伝統文化、地域活性化、多文化共生など、たくさんあるわね



- ★ 子どもや青少年を未来に羽ばたく人材として育てていくために、地域の歴史・文化・自然・環境等に触れる機会や、ものづくりをはじめ「本物を見る・知る・聞く」といった体験、ボランティア活動や職業体験活動への参加・参画など、学ぶ意欲につながる感動や成功体験にたくさん出逢える機会を創っていくことが大切です。

そのためには家庭や幼稚園・保育園、学校だけではなく、地域の大人たちや生涯学習施設等がネットワークを張り巡らせ、

お互いに関わり合いながら、子どもたち一人ひとりの個性ある未知の可能性を引き出していくような取り組みが重要です。

活動の達成感・満足感などの「成功体験」の積み重ねが、「もっと知りたい」、「もっとやってみたい」につながっていくよね

青少年に地域からミッション(使命)を与えることによって、地域課題を考える機会を創るなど、地域に学ぶプロセスを体感させることも必要だね



- ★ 10年後(平成33年(2011))には、高浜市でも「超高齢社会」に突入することが見込まれます。「第2の人生」を楽しく、生きがいを持って謳歌できるように、また、培ってきた豊かな経験や知識を、地域のまちづくりや子どもの育成に役立てることができるようなきっかけづくりが必要です。

生涯総労働時間と定年後の自由時間は、それぞれ約10万時間と言われているんですって

子どもや孫たちのために、私たちが何かやってみようかな？



「まなび」の芽を発芽させよう！ たとえば・・・

絵本作家になる夢が芽生えるかも・・・



プロスポーツ選手になりたい！と思う
指導者としてスポーツの楽しさを広めたい



(2)「まなび」の芽を育てるために、みんなで水や養分を与え合おう！



人と人 人と「まなび」を結び合おう！

「まなび」を豊かなものにしていくためには、「まなび」で得たことを個人の中にとどめおくのではなく、誰かへ教えたり、社会の中に活かしていくことが大切です。個人個人、あるいは各団体等がばらばらに活動するのではなく、交流したり、緩やかにつながり合うことができるよう、「まなび」に関する情報を受発信したり、「学びたい人（団体）」と「教えたい人（団体）」をつなげるための支援を行っていきます。

また、知識・技能・経験等を持った人材を掘り起こし、「まなび」の担い手として活躍できる場を創出していきます。そうした積み重ねが、新たな「まなび」の出逢いにも、つながっていきます。

学校は、子どもだけでなく、誰もが通いやすい身近な場所にある地域社会の共有財産です。学校を拠点として、家庭・学校・地域がつながりあい、子どもと大人がともに学び、異世代交流を深めていくことによって、お互いに顔の見える関係や、人と人とのつながりが育まれ、地域活力の基盤となっていきます。

- ★ 学校・学区を拠点・基盤に、子どもたちが大人とふれあい、共通の体験をする機会や、住んでいる地域の行事に関わる機会を創っていくなど、子どもたちだけでなく、大人たちも参加・参画しやすい環境を整え、地域に根ざした「まなび」を育てていくことが大切です。
- ★ 人と人が活発に交流しあうことで、連帯感が育まれるとともに、新たな「まなび」との出逢いも生まれてきます。「まなび」の成果を個人の中にとどめず、他の人に教えたり、地域のまちづくりに活かしていくことができるような場・仕組みづくりを進めていくことが重要です。
- ★ みんなで多様な「まなび」の花を咲かせていくためには、大学等の教育機関や学識経験者といった、専門知識・技能を有する人・団体との連携・協力も必要です。



家庭を「第1の居場所」、学校や職場を「第2の居場所」とすると、それに続く「第3の居場所」をどう見つけていくかが課題かな

楽しいことや、好奇心を満たすことのほかに、人や社会のために役立っているといった有用感や、役割意識を見出すことが大切だね



- ★ 「まなび」の成果や、知識・技能・経験等を活かせるよう、人材を掘り起こし、活躍の場をつくるほか、人材や活動をコーディネートし、活力あるまちづくりにつなげていくことが重要であることから、地域や市民団体、生涯学習施設、関係機関、企業、行政などが互いに連携・協働する「たかはま生涯学習プロデュース・ネット」*を構築していきます。

* 「たかはま生涯学習プロデュース・ネット」とは

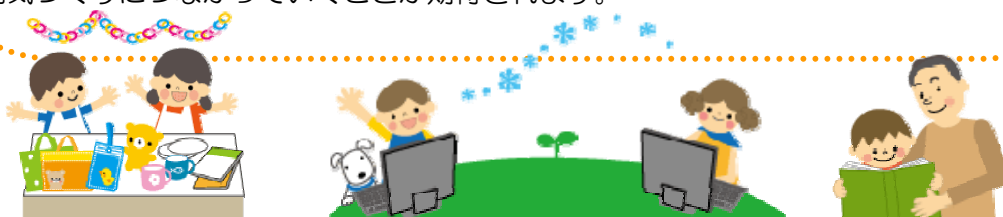
「まなび」の成果を個人の中にとどめておくのではなく、誰かに教えたり、社会の中で活かすことができるように、人と人、人と「まなび」、人と資源等をヨコへつなぐことによって、地育力（地域教育力）を豊かにしていこうという仕組み・考え方。

鍵となるのは「地域コーディネーター」（＝生涯学習プロデューサー）の存在。「地域コーディネーター」とは、「まなび」に関する活動を企画立案し、活動内容の調整などを行っていく人材・団体・機関。市民、学校、地域、ボランティアグループ、生涯学習施設（例：公民館、図書館、美術館）、企業、学識経験者、高浜市出身・ゆかりの方々などに参画を呼びかけ、ネットワークを張り巡らせながら、「まなび」に対する一人ひとりの好奇心を呼び起こしたり、「もっと学びたい」「もっと活動したい」と思っている人に対して「まなび」の幅を広げることができるように、また「まなび」の深さを掘り下げていくことができるように努めていくことが求められます。

また、「まなび」活動を行う人たち自身（＝生涯学習プレイヤー）も、もっと「まなび」の輪が広がっていくように、人・まなび・資源をつなぎあう触媒としての作用が期待されます。

さらに、将来、「地域コーディネーター」の役割を担うことができるような人材等の育成も大切な観点であることから、「地域の達人探し」などの人材の掘り起こしや活躍の場づくりなどを並行して進めていくことも大切です。

「たかはま生涯学習プロデュース・ネット」が、「まなび」と「行動」が循環しあう生涯学習の土台となることによって、住んでいる人同士の絆づくり、地域の個性や創意工夫を活かしたまちづくり、ひいては、コミュニティビジネスなどの創出など、まちの元気づくりにつながっていくことが期待されます。



(3)「まなび」の根っこをしっかりと大地へ下ろし、
芽を大樹のように育てていこう！



「まなび」の輪をまち全体へ広げていこう！

高浜市を未来へつないでいくためには、まずは、今を生きる私たちが住んでいるまちの
ことを知ることから始まります。高浜市は、「三州瓦」に代表される、江戸時代から続
く窯業のまちとして、近年では輸送機器関連産業などが盛んな「モノづくりのまち」と
して発展してきました。また、「吉浜細工人形」（愛知県無形文化財）、「えんちょこ獅子」
（愛知県無形民俗文化財）、「射放弓」や「おまんとまつり」（高浜市無形民俗文化財）を
はじめとする個性豊かな地域資源が数多くあります。こうした資源や魅力の掘り起こ
し・発信・活用によって、愛着や誇りを高めながら後継者を育成していく「まなび」と
「行動」の循環を支援していきます。

また、まちへの愛着や誇りは、まちづくりに関わることから芽生えます。一人ひと
りが積み重ねてきた「まなび」の成果を結集させ、まちを切り拓いていくパワーに変え
ていくため、市民・地域・学校・関係機関・行政等、「まなび」に関わる者同士のネット
ワーク構築を進めるとともに、地域の個性や創意工夫を活かした多様なまちづくりの実
践を支援するなど、「まなび」を支える仕組み・体制を整備していきます。



地域資源を活用したり、
自分がやりたいこと、地域
のために役立つことが、ち
よつとした“小銭稼ぎ”につ
ながったら、とてもいいね

高浜市の個性や魅力はたくさ
んあるはず。掘り起こしや発信
をして「高浜市が大好き」「高
浜市に住んでよかった」と思う
人が増えていくといいな



- ★ 歴史や文化、伝統、産業など、地域の良さを学び合い、次の世代へ継承し、愛着と誇りを高めていくために、「地域学」*（高浜学）を立ち上げ、地域や関係団体等と連携・協力しながら取り組んでいくことが必要です。

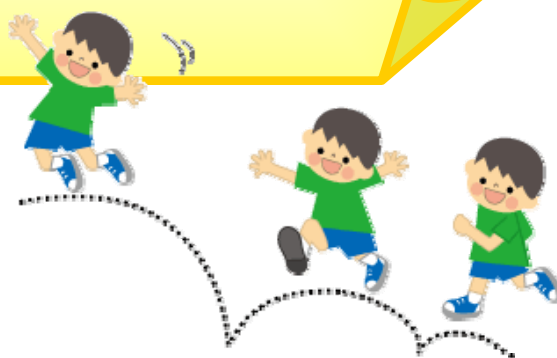
*「地域学」とは

自分たちの住む地域の文化や歴史、自然、産業などを再発見し、その魅力や強みを発掘・活用していく取り組み。全国各地では、例えば、「ご当地検定」「まちごとまるごと博物館」など、多彩な取り組みが広がりつつあります。

- ★ 子どもからお年寄りまで、地域に暮らす全ての人々がお互いに協力しながら、それぞれの役割を積極的に果たすことにより、ともに生き、ともに支え合うといった、誰もが安心して楽しく暮らすことができ、地域の特性を活かしたまちづくりを目指していくことが大切です。
- ★ 「まなび」の成果を市政運営に活かすことができるよう、参画機会の創出や協働事業を拡充していくことが重要です。
- ★ 「まなび」はよりよい豊かな人生を送るために、誰もが持っている権利です。市民の「学びたい」「活動したい」という想いを応援するため、「まなび」を支える仕組み・体制づくりを進めていきます。

学べば、学ぶほど、
自分が何も知らなかったことに気づく、
気づけば気づくほど
また学びたくなる。

(アルベルト・アインシュタイン)



第3章

基本計画

基本目標 (1)

「まなび」の芽を 発芽させよう!



目標 ① 自分磨きを続けていこう！

★ 目標が達成された姿

- ・ 生涯を通じて「もっと知りたい」「あれもやってみたい」という好奇心や意欲を持ち続けている人が増えています。
- ・ 市民一人ひとりが、それぞれの置かれている立場や環境の違いに関わらず、誰もが自由に気軽に、身近な場でまなびに参加でき、活動できる環境が整っています。
- ・ 趣味・教養といった「自己実現型のまなび」にとどまらず、防犯、防災、福祉といった社会的課題や地域課題に応じたまなびが活発に行われています。

★ 目標達成に向けての考え方

だれでも・いつまでも、「もっと知りたい」「あれもやってみたい」と思えるような、まなびの好奇心や意欲を引き出す場や機会を、地域や学校、関係機関等と連携して創っていきます。

- ・ 「学習したい」「活動したい」という想いを応援し、個々の活動の参加者・対象者を広げることが必要です。
- ・ 社会における様々な分野の課題に対応した学習機会を創出していくことが必要です。
- ・ まなびに参加・活動しやすい環境を整えていくことが必要です。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- 生涯学習活動に積極的に参加しよう。
- 情報を提供しよう。

地域活動等

- 地域活動を生涯学習の一つと位置づけて活動しよう。
- 情報を提供しよう。

関係機関・団体

- 専門的な知識・技能・経験等を広めよう。
- 情報を提供しよう。

行政

- 行政の仕事を生涯学習として捉えていきます。
- 情報を一元化します。
- 相談窓口を設置します。

★ こんなことに取り組んでいきます！

- ・ 趣味・教養といった「自己実現型のまなび」だけでなく、自分の人生を設計する力やコミュニケーション能力、地域の課題発見・解決力といった、ライフステージに応じたまなびの幅が広がるようなプログラムを、地域や関係機関・団体等と連携・協力して企画・創出していきます。
- ・ 行政が関与する生涯学習活動を調査するとともに、市民主体の活動を市民の皆様からの情報提供により補完していきます。
- ・ 子育て情報メール・ポータルサイト*機能に生涯学習情報を追加し、情報の一元化により参加者の裾野を広げていきます。

*「ポータルサイト」とは

インターネットに接続したときに、最初に見るサイトのこと。

- ・ 新たにまなびに取り組もうとしている人や継続的にまなびを続けている人の相談に応じる総合的な相談・情報提供の窓口を設置していきます。

講座・サークル活動



いきいき健康マイレージ



目標 ② 未来に羽ばたく人材を育てていこう！

★ 目標が達成された姿

- ・ 感動との出逢い、楽しい成功体験を重ねる子どもが増えています。
- ・ 子どもたちの個性が伸び、自ら考え、行動する力、挑戦する力が身についています。
- ・ 地域の大人たちが子どもたちの育ちを見守り、子どもたちのために汗を流していこうと活動する人が増えています。

★ 目標達成に向けての考え方

確かな学力の前提となる「もっと知りたい、学びたい」という意欲につながる感動や成功体験にたくさん出逢える機会を創っていくため、家庭や幼稚園・保育園、学校だけではなく、地域の大人たちや生涯学習施設等が連携・協力し合いながら、子どもたち一人ひとりの個性ある未知の可能性を引き出していくような取り組みを進めていくことが大切です。

- ・ 子どもたちが自ら考え、行動するチャレンジ精神が育まれ、仲間とともに成果や喜びを得られる体験活動の機会を充実させていくことが大切です。
- ・ 社会との関わりを通じて達成感をえることや、社会に対する責任感を育むために、子ども・若者が主体的に参加・参画できる活動機会や、知識や技能等を身につける機会を充実させていくことが大切です。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- 家庭の教育力を向上させよう。
- 学校等と連携しよう。

地域活動等

- 子どもを視点とした事業を実施しよう。
- 学校等と連携しよう。

関係機関・団体

- 子どもを視点とした事業を実施しよう。
- 学校等と連携しよう。

行政

- 事業を企画・立案します。
- 人材等を広く情報提供していきます。
- 学校等と連携します。

★ こんなことに取り組んでいきます！

- ・ 「たかはま子育て・子育て応援計画（後期計画）」に基づき、親子講座など親子がふれ合い、共に学ぶ機会をつくっていきます。
- ・ 保育園・幼稚園のあり方について議論を深め、子どもが伸び伸びと育つ環境づくりに努めていきます。
- ・ 学校と地域が一体となって、子どもを育み、まなびの基本的な力を培うことができるよう、「高浜市教育基本構想」に基づき、学校を「学びの拠点」とし、地域の活動を行う場、地域の住民が子どもたちと交流する場となるよう努めていきます。
- ・ 幼児・児童・生徒に確かな学力を身につけさせるために、専門的な教育の担い手としての教員の授業力向上を目指していきます。
- ・ 地域等と連携して子どもの生きる力を育む視点を取り入れた事業を企画・実施していきます。
- ・ 図書館、美術館はそれぞれが連携し、絵本作家や陶芸家などを輩出することを目指していきます。
- ・ たかはま夢・未来塾は、子どもの成長を考えた、新たな講座等を開催していきます。
- ・ 中・高校生の居場所「バコハ」は、大学生を含めて自ら考え企画し、実践するという創造力と成功体験が得られる場としていきます。

たかはま夢・未来塾



バコハ(中・高校生の居場所事業)



目標 ③ セカンドライフをいきいきと過ごそう！

★ 目標が達成された姿

- ・ シニア層が元気に地域活動を行っています。
- ・ 地域デビュー予備軍も、子どもたちのため、地域のために活動しています。

★ 目標達成に向けての考え方

長寿社会の中、「第2の人生」を楽しく、生きがいを持って謳歌できるように、また、培ってきた豊かな経験や知識を、地域のまちづくりや子どもの育成に役立てていこうと行動する人を増やしていくことが大切です。

- ・ 健康や介護といった高齢者とは切り離すことができない課題の学習機会の提供が必要です。
- ・ 継続的に介護予防に資するような生涯学習活動（軽度な運動）が必要です。
- ・ シニア層は、地域の歴史・文化をよく知っています。豊富な知識・技能・経験を活かせるよう、まなびの指導者や、地域活動の一步が踏み出せるような支援、活躍の場づくりが重要です。
- ・ セカンドライフは、若い頃からの働き方・過ごし方が大きく関わってきます。子育てを通じて地域活動に関わるなど、意識づけや参加しやすい環境整備が大切です。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- 地域活動や生涯学習活動に積極的に参加しよう。

地域活動等

- シニア層を中心に事業を展開しよう。
- 40代・50代は地域のイベントを手伝おう。

関係機関・団体

- 地域活動や生涯学習活動に連携・協力しよう。

行政

- 広く情報発信します。
- まちづくり、介護予防などに有益な事業に対して、人的・金銭的に支援します。

★ こんなことに取り組んでいきます！

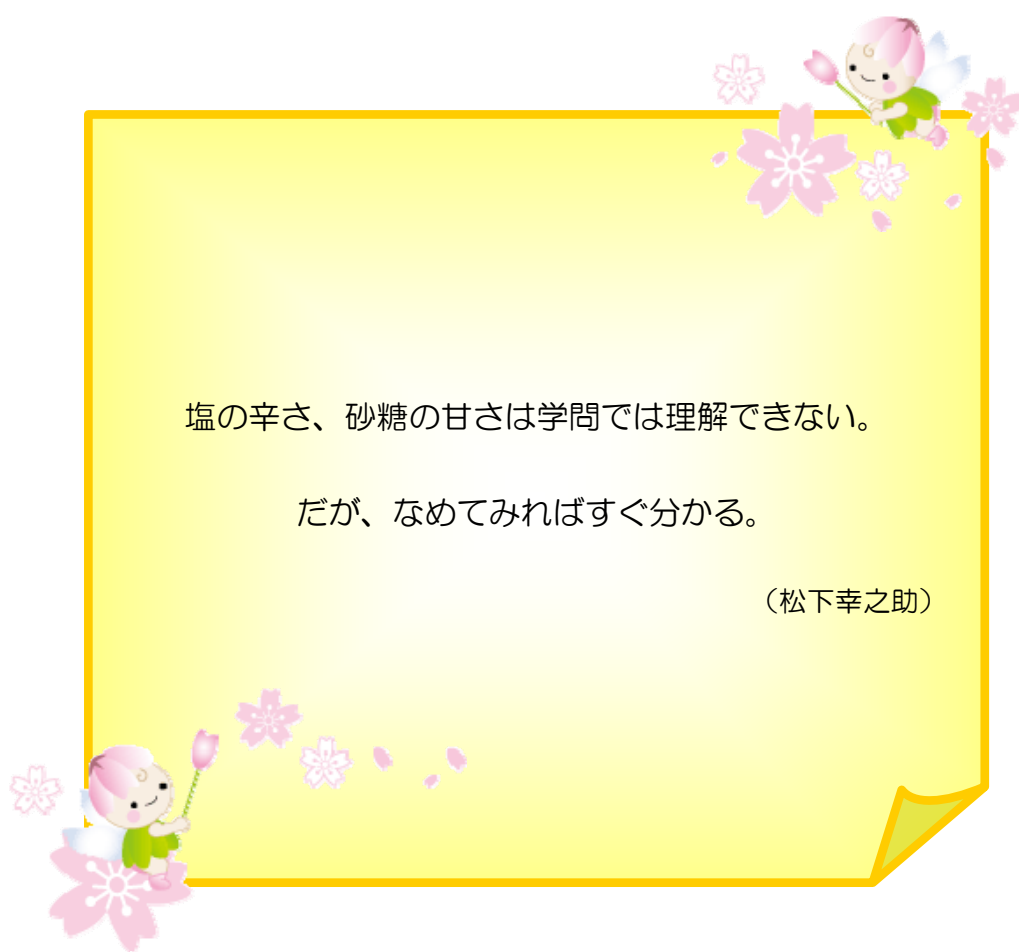
- ・ 地域との連携の中で社会参加を促し、日常生活の生きがいがづくりの充実を図っていきます。
- ・ 心身両面の健康、体力づくり、趣味やレクリエーションに参加できるように、多様なスポーツに親しむ機会の充実に努めていきます。
- ・ 健康に関する各種情報の提供や健康教室などの学習機会の充実を図っていきます。
- ・ 余暇を活用したボランティア活動などに参加できるよう、情報を提供していきます。
- ・ シニア層の豊富な知識・技能・経験を活かし、指導者や地域に根ざした活動で活躍できるよう支援していきます。

男のレシピ研究会



おやじの会





塩の辛さ、砂糖の甘さは学問では理解できない。

だが、なめてみればすぐ分かる。

(松下幸之助)

基本目標 (2)

**「まなび」の芽を
育てるために、
みんなで水や養分を
与え合おう！**



目標 ① 学区を基盤とした世代間交流を活発にしよう！

★ 目標が達成された姿

- ・ 多くの子どもたちが、地域行事やボランティア活動に参加しています。
- ・ 多くの大人たちが、地域の子どものために活動しています。
- ・ 学校・家庭・地域の連携・協力関係が築かれています。

★ 目標達成に向けての考え方

人と人が活発に交流しあうことで、まなびや活動の輪が広がり、そこから地域社会の連帯感が生まれていくことが期待されます。学区を基盤として、子どもと大人がともに学び、異世代交流を深めていくことによって、お互いに顔の見える関係や、人と人とのつながりを育み、地域活力の基盤としていくことが重要です。

- ・ 家庭・学校・地域が連携・協力して、地域の中で子どもを見守り育て、次世代のまちづくりの基礎となる人材育成へとつなげていくことが大切です。
- ・ 子どもから高齢者まで、地域のあらゆる人たちが参加・参画しやすい行事・体験機会等を、市民・地域の手で創り上げていくことが大切です。
- ・ 子どもの意見を地域活動に活かし、課題を共有する市民同士が課題を解決していくことができるように交流・連携を進めていくことが大切です。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- 地域や学校活動に積極的に参加しよう。

地域活動等

- 学校活動に人的支援をしよう。
- 世代間交流事業を実施しよう。

関係機関・団体

- 学校活動や地域活動に人的支援をしよう。

行政

- 世代間交流事業に人的・財政的に支援します。

★ こんなことに取り組んでいきます！

- ・ 総合的な学習の時間などを利用した職場体験学習や郷土学習など、子どもが地域とのつながりを深めるための体験的な学習の充実に努めていきます。
- ・ 地域における多世代が交流する地域活動を、まちづくり協議会の活動を中心に支援していきます。
- ・ 放課後子ども居場所事業に、地域の多くの大人たちが関われる仕組みをつくりま

ふれあい福祉農園



子ども菊人形づくり



どろんこまつり



放課後子ども居場所事業



納涼夏まつり 子ども商店街



子どもと大人と一緒に廃品回収



目標 ② 教え・教えられる仲間づくりを築いていこう！

★ 目標が達成された姿

- ・ 自分が持っている力（知識・技能・経験等）や感動・体験等を、他の人へ伝えたり、地域のために役立てていこうと行動する市民が増えています。
- ・ 市民が市民のまなびを支えるなど、人と人がつながりあうことによって、新たなまなびとの出逢いが生まれています。
- ・ まなびを行う市民・団体・関係機関等がつながりあい、交流が深まっています。

★ 目標達成に向けての考え方

まなびの成果を個人の中にとどめず、他の人に教えたり、地域のまちづくりに活かしていくことができるよう、地域の人材の活用や活躍の場・仕組みづくりを進めていくことが重要です。

- ・ まなびの核となる人材の掘り起こしを進めていくことが大切です。
- ・ まなびの成果や知識・技能・経験を活かし、社会へ還元することにより自らを高め、一人ひとりがまなびの主体となるように育てていく環境をつくっていくことが必要です。
- ・ 人と人、人とまなびがつながりあうように、まなびに関する情報・活動等をコーディネート・マッチングする人材（指導者）の育成が必要です。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- 生涯学習活動に積極的に参加しよう。
- 知識・技能・経験等を持つ方は、指導者として参画しよう。

地域活動等

- 事業を実施又は支援しよう。
- 人材を発掘しよう。

関係機関・団体

- 事業を実施又は支援しよう。
- 専門的な知識・技能・経験等を地域、学校で広めよう。

行政

- 生涯学習情報を一元化し、情報提供します。
- 人材を地域、学校とつなぎます。

★ こんなことに取り組んでいきます！

- ・ まなびの成果や、知識・技能・経験等を活かせるよう、人材を掘り起こし、活躍の場をつくるほか、人材や活動をコーディネート・マッチングし、活力あるまちづくりにつなげていくために、地域や市民団体、生涯学習施設、関係機関、企業、行政などが互いに連携・協働する「たかはま生涯学習プロデュース・ネット」の構築を目指していきます。
- ・ 生涯学習プログラムづくりに、市民が参画しています。
- ・ 市民・地域・生涯学習施設・関係機関等から、多様なまなびに関する情報を集め、共有し、連携・協力関係の構築につなげていきます。
- ・ 地域や学校において、自ら学習したことを講師として教えられる機会を創出し、学習成果を活かせる仕組みを検討し、共に育つ「共育」を目指していきます。
- ・ 自らの知識や技術、経験を活かしたいと考えている人や、活動のきっかけづくりを求めている人が参加できる指導者養成講座の開催や、指導者の支援をする機会を創出し、指導者同士の情報交換・交流を行うことによって、スキルアップを目指すなど、まなびを支える人材（地域コーディネーター）の育成に努めていきます。

IT工房 くいっく



寺子屋教室



目標 ③ まなびの資源をフル活用しよう！

★ 目標が達成された姿

- ・ 大学等の専門機関や学識経験者、高浜市の出身者や高浜にゆかりのある人材が掘り起こされ、連携・協力が進み、豊かなまなびが展開されています。
- ・ 「まなび」に関する資源（人・モノ・情報）をつなげることにより、誰もがまなびに参加しやすい環境が整っています。

★ 目標達成に向けての考え方

まなびを進めるための施設や環境は、民間を含めて極めて多様です。それぞれの施設等を有効に活用するとともに、大学や研究機関（研究者）といった専門機関との連携・協力、情報や施設、資源を有効に活用し、「まなび」の幅を広げ、豊かなものにしていきます。

- ・ まなびが一人ひとりの趣味・娯楽といった個人の楽しみの段階から、まちづくりへとつながる段階に進むことが大切です。
- ・ 学識経験者や教育機関の職員、人生経験豊かなシニア層など、様々なまなびの指導者となりうる人材の発掘と活用システムの構築が重要です。
- ・ 各生涯学習団体は、それぞれが連携することにより人がつながり、より大きな力を発揮します。まなびを志す個人や団体が連携できる組織づくりが望まれます。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- 知識・技能・経験等をまちづくりに活かそう。

地域活動等

- 人材を発掘しよう。

関係機関・団体

- 人材を発掘しよう。

行政

- 人材同士をつなげる仕組みをつくります。

★ こんなことに取り組んでいきます！

- ・ 意を同じくする団体・個人、学識経験者などが直接意見交換する場を提供し、人材がつながる仕組みをつくり、新たな人材発掘や優れた人材のさらなる能力の向上と活用を検討していきます。
- ・ 市民や地域等と連携し、まなびに関する多様な情報を集め、発信・活用していきます。
- ・ 美術館、図書館（郷土資料館）、たかはま夢・未来塾、バコハ、公民館、まちづくり協議会、学校等々の連携・協力による施設の有効活用を図り、まなびやすい環境づくりに努めていきます。

大学等との連携



専門家の招聘・連携





基本目標 (3)

**「まなび」の根っこを
しっかりと大地へ下ろし、
芽を大樹のように
育てていこう！**



目標 ① まちへの愛着と誇りを高めていこう！



★ 目標が達成された姿

- ・ 地域資源（歴史、文化、伝統、産業等）の掘り起こしが活発に行われ、継承に向けた取り組み機運が高まっています。
- ・ 市民の手によって地域資源に磨きがかけられ、高浜市の“自慢”が増えています。
- ・ 「たかはま大好き」という市民が増えています。

★ 目標達成に向けての考え方

高浜市のことを知ることが、高浜市への愛着と誇りを高める第一歩です。また、愛着や誇りは、まちづくりに関わることから芽生えます。市民の手で「高浜市のよいところ探し」が行われ、高浜市の自慢として魅力に磨きをかけたり、市内外に発信するなど、まちづくりに活かしていくことが大切です。

- ・ 地域の祭りや伝統文化に関する行事など、地域資源との出逢いの機会を積極的に創り出していくことが大切です。
- ・ 地域に伝わる歴史・伝統文化等を次の世代に伝えていく過程の中で、それらに対する意識・関心が高まるような工夫を凝らしていく必要があります。
- ・ 文化財等を適切に保存・活用するとともに、後継者育成に努めていくことが大切です。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- 地域の祭りや伝統文化等に関する行事などに参加しよう。

地域活動等

- 地域資源に対する関心を高め、掘り起こし、磨きをかける取り組みを進めよう。
- 後継者を発掘し、育成しよう。

関係機関・団体

- 市民の地域資源に対する関心が高まるような普及啓発活動（情報発信）を進めよう。
- 後継者を発掘し、育成しよう。

行政

- 文化遺産を保護します。
- 伝統文化の振興に、人的、財政的に支援します。
- 学習機会の提供を図ります。

★ こんなことに取り組んでいきます！

- ・ 文化遺産の調査や適切な保護・保存・活用などを推進し、継承に向けて、市民の関心が高まるように情報発信に努めていきます。
- ・ 美術館・図書館・郷土資料館などを活用して、地域資源について知る（学ぶ）機会を創出し、市民への普及啓発・意識高揚を図っていきます。
- ・ 地域や関係団体等と連携し、地域の良さ・魅力を学び合う地域学（高浜学）を立ち上げ、まちづくりへの活用を目指していきます。

* 「地域学」とは

自分たちの住む地域の文化や歴史、自然、産業などを再発見し、その魅力や強みを発掘・活用していく取り組み。全国各地では、例えば、「ご当地検定」「まちごとまるごと博物館」など、多彩な取り組みが広がりつつあります。

鬼のみち



吉浜細工人形



目標 ② 地域の個性をまちづくりに活かしていこう！

★ 目標が達成された姿

- ・ 先人たちが築き上げてきた足跡を踏まえ、現代に生きる私たちの新たな息吹を加えた、まちづくりが行われています。
- ・ 市民の市政運営への参画機会や協働で取り組む事業が増えるなど、市民が主役のまちづくりが進められています。

★ 目標達成に向けての考え方

一人ひとりが積み重ねてきたまなびの成果を結集させ、まちを切り拓いていくパワーに変えていくため、市民・地域・学校・関係機関・行政等、まなびに関わる者同士のネットワーク構築を進めるとともに、地域の個性や創意工夫を活かした多様なまちづくりの実践を支援していくことが重要です。

- ・ 地域を構成する一員としての自覚と「自分たちのまちは自分たちで創る」意識を育てることが重要です。
- ・ 子どもからお年寄りまで、地域に暮らす全ての人々がお互いに協力しながら、ともに生き、ともに支え合うといった、誰もが安心して楽しく暮らすことができるよう地域の特性を活かしたまちづくりを目指していくことが大切です。
- ・ まなびの成果を市政運営に活かすことができるよう、参画機会の創出や協働事業を拡充していくことが重要です。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ~それぞれの役割~

市民

- 地域の一員として自覚しよう。
- 地域の未来像を描こう。

地域活動等

- 「自分たちのまちは自分たちで創る」意識を育てよう。
- 地域の未来像を描こう。

関係機関・団体

- 「自分たちのまちは自分たちで創る」意識を育てよう。
- 地域の未来像を描こう。

行政

- 学習機会と情報を提供します。
- 市全体の未来像を描きます。

★ こんなことに取り組んでいきます！

- ・ 地域の個性を活かした新たなまちの未来像を創りあげるなど、市の将来を見据えたうえで、欠くことのできない学習内容を検討し、学習機会の提供に努めていきます。
- ・ まちづくりの基本原則「参画・協働・情報共有の原則」に基づき、市民の自主的・自発的な、地域の課題に対応したまちづくり、個性を活かしたまちづくりを応援していきます。

目標 ③ まなびを支える仕組み・体制づくりを整えていこう！

★ 目標が達成された姿

- ・ 市民、市民団体、学校などの教育機関、企業、地域、生涯学習施設、行政など、多様な主体がつながりあいながら、まなびに関する活動が行われています。
- ・ 市民も行政も「生涯学習基本構想・基本計画」の推進（実行、評価）を通して、ともに学び合い、ともに行動しています。

★ 目標達成に向けての考え方

生涯学習の基本は、市民一人ひとりの自由で主体的な活動にあり、行政の役割はそれらの活動が効果的に行われるよう、環境整備や活動支援を行うところにあります。

- ・ 様々な分野の取り組みをまなびという視点で横串を通し、関連付け・体系化していくため、事業や人材の掘り起こしなどの総合的調整といった、まなびに関連する部局の連携体制を整えていくことが必要です。
- ・ 「生涯学習基本構想・基本計画」を市民等と行政の協働により推進する体制（実行、評価）を整えていくことが必要です。
- ・ 事業の現状把握を基に事業目標を設定し、その実施成果を評価、点検することにより、まなびの足取り・成果を確かなものにしていくことが重要です。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- 仕組み・体制づくりに協力しよう。
- 評価結果を点検し、提言しよう。

地域活動等

- 仕組み・体制づくりに協力しよう。
- 評価結果を点検し、提言しよう。

関係機関・団体

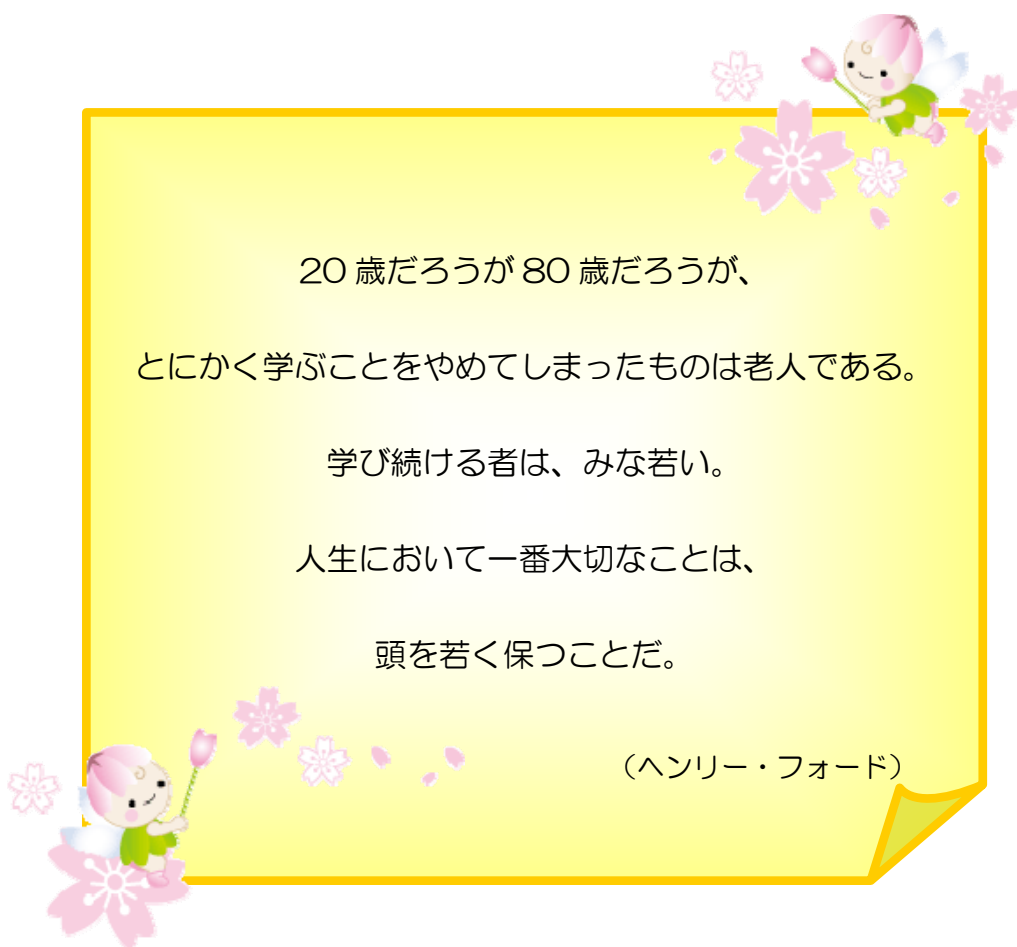
- 仕組み・体制づくりに協力しよう。
- 評価結果を点検し、提言しよう。

行政

- 仕組み・体制づくりを検討します。
- 評価結果を点検し、次につなげます。

★ こんなことに取り組んでいきます！

- ・ 生涯学習を志す個人や団体が連携できる組織づくりを進めるとともに、多くの生涯学習の指導者やプレイヤーを体系的・総合的に育成し、活用する仕組みを検討していきます。
- ・ 生涯学習の指導者やプレイヤーを登録する生涯学習人材バンクを整備していきます。
- ・ 市民、地域団体、社会教育関係者、文化関係者、スポーツ関係者、学校教育関係者、学識経験者など、幅広い層から、子どもを根っことする生涯学習の確立に向けて、様々な課題を協議し、解決に向けたアイデアを出し、実践をし、市民の「学びたい」「活動したい」を応援していきます。
- ・ 基本計画に掲げた取り組みについて、市民と行政の双方で評価を実施し、取り組みの状況から見えてくる課題を共有し、次年度に向けて取り組みの継続性や新たな取り組みの必要性、取り組みの方向性や視点を確認することによって、計画の実効性を高め、市民と行政もともに学び、行動していきます。



第2次高浜市生涯学習基本構想・基本計画
—学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう—
「まなび」でつなぐ「大家族たかはま」

平成 24 年 2 月

発 行

高浜市役所 こども未来部 文化スポーツグループ

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2

<電 話> 0566-52-1111(代表)

<E-mail> bunka@city.takahama.lg.jp